

令和3年度職員自己評価 結果報告

今年度初の試みとして、前期・後期と2回の自己評価を行った。

前期

指導案とその展開

子どもへの関わり・配慮

保護者支援

行事

自己のスキルアップ

分析

ほとんどの保育者が「10の姿」「3つの柱」を大切に計画を立て、個を意識して子どもたちが主体的に活動できるよう心がけている。

また本園の多くを占めるベテラン保育者は、園内・園外研修を通して新しい教育保育へのシフトチェンジの必要性を感じ努力している姿がうかがえる。ただ、自分の教育保育を振り返り評価するという作業が習慣づいてないベテラン保育者もいるので後期の課題とした。

保護者支援に関しては、コロナ禍で送迎時間に思うように保護者と話す時間を取れないことで、工夫はしているが十分な支援ができていないのか不安を感じている保育者がほとんどであった。コロナ禍での保護者支援も課題の一つとなった。

保育者一人一人が、自己評価から自身の課題や目標を見つけ後期の教育保育に取り組もうとしている。

後期

エピソード記録

前期の自己評価からの自身の変化

自分自身の来年度の課題・目標。それについての現状・取り組み方

分析

エピソード記録から、その時の子どもや保育者の表情、気持ちそして情景が思い浮かべられるもの、ただ、その時の出来事を書いただけで情景を思い浮かべるのは難しいもの、と大きく分かれた。記録の内容から自分自身の教育保育をきちんと振り返ることができているか否かが表れていると感じる。

自身の変化については、個々の課題や目標に対して積極的に取り組み、ほとんどの保育者が自身のスキルアップにつながったと感じられている。

来年度に向けての課題・目標については、子どもへの言葉かけ・関わり方を課題としている保育者が多かった。対応の難しさを感じる子どもが増えてきていることも要因の一つだと推測できる。

評価

今回、1年に2回自己評価をすることで自身の教育保育を見直す機会が増え、それがスキルアップにつながった保育者も多かったように思う。

今年度は、指導計画の評価や日誌等あらゆる書類を作る度に、「自分の教育保育の振り返りと評価」を意識するようにし、園内研修にも取り入れた。が、後期のエピソード記録からはまだまだ十分ではない保育者が多い。園として来年度も引き続き取り組み、助言していくとともに、それぞれの来年度の目標達成に向け園外研修の受講、園内研修の充実等、教育保育の質の向上に向けて取り組んでいく。

更に、with コロナの中で子どもたちにとっての最良の教育保育とは何か、保護者支援のあり方を模索していきたい。